

# 地域・官・民の連携で組織の持続性を確保

## まえのはま水・土・里保存会

- 喜入前之浜町は、鹿児島市の南部に位置し、川上、川中、川下、鈴の4つの集落があり、面積は約12 km<sup>2</sup>と喜入地域内で最も広く、人口は令和4年度11月時点で1,120人である。
- 農業者の高齢化と減少に伴い、農地の借り手も減少していくことが予想されるため、遊休農地が発生しないよう行政と連携を図りながら、当地域の有する多面的機能の維持・発揮に努める必要がある。
- 以前から多面的機能支払交付金事業の導入に向けて関係機関と協議を重ねてきたが、事務処理の担い手に難航していた。担い手が見つかったこと、民間企業の協力が得られたことにより、5年間の持続性を確保した組織を立ち上げることができた。

### 【地区概要】

- ・取組面積：200.8ha  
(田 81.2ha)  
(畑 119.6ha)
- ・資源量：水路 64.0km, 農道 59.0km
- ・主な構成員：農業者, 非農業者,  
前之浜小学校, 地元企業
- ・交付金：約1,140万円 (R4)  
農地維持支払483万円  
資源向上支払657万円  
(長寿命化含)

1

### 活動開始前の状況や課題

- 過疎化、少子高齢化、担い手不足などにより、農地が荒廃し休耕田が増えたことで、イノシシなど害獣が農作物を荒らすようになってきた。主に受益者や鹿児島市が管理してきた水路や農道等の農業用施設の利用頻度の減少により保全管理の低下が課題となっていた。
- 少子化による伝統芸能の踊り子の減少で継続が危惧されていた。

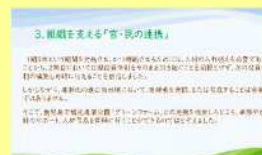


【前之浜の棚田】

### 設立までの歩み

#### 【設立準備】

- R3年度から、コミュニティ協議会を主として、集落長や地元企業を含めた準備委員会を立ち上げる。
- 広報チラシやPowerPointを作成し、各集落への回覧、地元小学校や団体等に周知を図る。
- 協力してくれる、『人』『企業』を探す。



### 取組の効果

- 組織設立によるメリット
  - ・農地までの道路沿いに生い茂っていた草木を伐採することができ、見通しが良くなったことで離合の際の危険性が低下した。
  - ・遊休農地となっていた農地を開墾することで、鳥獣害対策となり、さらに景観も良くなった。
  - ・「チョイのチョイ踊り」を、多面的機能の増進を図る活動に位置付けたことで、農村文化伝承の気運が高まり、世代間の伝承が期待される。



## きっかけ

農業及び農地保全の担い手不足と高齢化により、保全活動の弱体化を解消し、持続可能な農村地域として活気あるまちづくりを実現したい。

### Step1 (R3.8月)

#### 設立に向けて会議

以前より鹿児島市と多面的支払交付金事業の立ち上げについて協議を重ねてきましたが、「事務を担ってくれる人材」を確保することができず、発足に至りませんでした。そこでまずどんな人材が必要なのかを検討しました。

### Step2

#### 人を探す (求めた人材)

1. 公共性の高い事業であることを理解し、その使途に誠実であること。
2. 交付金事業という特性を理解し、また地域住民にひろく周知、啓発活動を行えること。
3. 農業に精通し、農用地を活用できるアイデアを持っていること。
4. 地域まちづくり協議会活動への理解があること。
5. 書類作成の経験があり、行政との折衝ができること。

### Step3

#### 組織づくり

- 2期目を見越して副代表2名体制(1名はまちづくり協議会会長。もう1名を若い世代から選出)
- 公共施設「鹿児島市観光農業公園グリーンファーム」と連携し、閉鎖的な組織とならないようにする。
- 4つの部会を設け、権限や労力の分散化を図る。

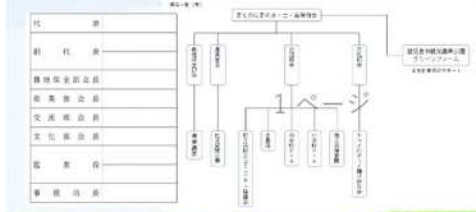
#### 3. 組織を支える『官・民の連携』

1期5年という期間を持続させ、かつ継続させるためには、人材の入れ替えも必要であることから、2期目においては現役員体制をそのまま引き継ぐことを前提とせず、次の役員体制の構築も同時に行えることを目指しました。

しかしながら、高齢化が進む当地域において、後継者を発掘、または育成することは容易ではありません。

そこで、鹿児島市観光農業公園「グリーンファーム」との連携を模索したところ、事務や会計のサポート、人材育成を同時に行うことができるのではと考えました。

#### 2. 組織づくり



#### 1. 人を探す

我々が求める人材として、

1. 公共性の高い事業であることを理解し、その使途に誠実であること。
2. 交付金事業という特性を理解し、また地域住民にひろく周知、啓発活動を行えること。
3. 農業に精通し、農用地を活用できるアイデアを持っていること。
4. 地域まちづくり協議会活動への理解があること。
5. 書類作成の経験があり、行政との折衝ができること。

#### 3. 組織を支える『官・民の連携』

#### 2. 組織づくり

#### 1. 人を探す

### 将来に向けて

- ・用水路の整備で農地を再生。
- ・農道の利便性向上。
- ・棚田の復活(美しい景観を取り戻す)
- ・耕作人口の増と若返り。
- ・農家に優しい地域づくりを推進することで、兼業農家を増やす。
- ・遊休農地の解消と発生抑止
- ・公園、グランドゴルフ場など憩いの場として整備

### 今後の展望

### Step5 (~R3)

#### 組織認定

- 「まえのはま水・土・里保存会」を設立
- 事務業務の部分委託
- ・ 事務におけるノウハウの蓄積と継承が図られ、人に依存しない体制を構築することで、組織の持続性を高める。

### Step4

#### 組織を支える『官・民の連携』

- 対象地域を絞らず、地域全体で取り組むことで集落間の連携や事業に対する温度差を解消する。
- 地元企業で構成される産業部会の協力を得ることで労力の省力化を図る。(重機の操作、資機材の調達など)